

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300768		
法人名	医療法人 社団 健成会		
事業所名	グループホーム ふれあいの家 御薬園		
所在地	熊本県人吉市七地町495		
自己評価作成日	平成23年2月28	評価結果市町村報告日	平成23年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成23年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力医療機関や訪問看護ステーションと連携を図り、入居者の方が安心して生活できるようにしている。</li> <li>・季節毎に活動の機会を設け、職員と入居者の方が一緒に楽しみながら活動を実施している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近くを球磨川を渡る鉄橋を見ることが自然に恵まれた場所にあり、散歩や眺めるだけで四季の移り変わりが肌で感じられる環境である。健康管理に関して、協力医、かかり付け医、訪問看護との連携が構築されており、家族への報告も適宜行い、家族との信頼関係ができています。職員は全員有資格者であり、ブロック会の研修や研修会開催により統一性のある、質の高いケアができるように努めている。入居者のできる事を把握し、能力を伸ばし、理念のとおり、ゆったりと共に喜び安心した生活が送ることが実現できるように励んでいる。今後は地域との交流を継続させ、新規の入居者の家族に対して、認知症やホームへの関わりを理解してもらえるような取り組みが期待される。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を廊下の見えやすいところに掲示するほか、パンフレットにも明示している。理念を実践できるように会議等で徹底し、日々のケアの中でその実践に向け取り組んでいる。	職員は、常に理念を念頭におき日々のケアを行っている。理念を実践できているかを日々振り返り、計画の見直しにつなげ、自身のスキルをあげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会や音楽祭等に参加している。又、小・中学校や高校からのボランティア等積極的に受け入れ交流を図っている。	近隣の小学校の運動会やふれあい音楽会などに出かけたり、社協主催のボランティアスクールへ参加したりしている。隣接する法人施設へ出かけ、踊りや歌などのボランティア行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小・中学校や高校から体験学習等を受け入れている。又、地域の方で相談にいられた場合は、行政や他施設と連携を取り解決に向かって取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しGHでの活動状況などの報告を行い市町村代表者や地域代表者・家族代表者と意見交換を行っている。その際にでた意見をサービスに活かしている。	入居者、入居者家族、行政職員、町内会長、ホーム職員でメンバーは構成されている。入居者の状況や活動報告、リスクマネジメント報告などを議題としている。会議で地域の行事の案内情報を得ることができている。意見交換や質問などに関して応答し、運営へ活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況報告や相談等連絡を行なっている。事業所交流会へ参加したり、人吉・球磨グループホームブロック会世話人として活動し、地域密着型サービス全体の質の向上に努めている。	推進会議に参加してもらうことにより、行政へ様々な相談ができる関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ施錠しているが、日中はいつでも外にでられるようにしてある。出入りの際にはセンサーにてチャイムがなるようになっていいる。又、身体拘束に関しての知識を深めるよう勉強会・話し合いの機会を設けている。	研修や勉強会参加により職員は身体拘束の弊害を理解している。車椅子利用の入居者には常に要望を聞き、また様子を感じし、椅子やベットへの移動を行っている。職員間でも話をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員や入居者の日常の言動に管理者は注意を払い虐待が見過ごされないようにしている。勉強会の機会を設け話し合い身体拘束のみならず精神的虐待等もないよう虐待防止の徹底に努めている。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加している。利用者・家族へは必要時に情報提供や手続きの支援を行うようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者が契約書を渡して説明している。入退院時や利用料等、その他家族の疑問や心配ごとについては十分に説明して署名、捺印をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中で入居者からの訴えを聴くように努め、家族の面会時に意見や要望があった際は職員間で共有し介護に反映できるよう努めている。又、運営推進会議の他、玄関にはご意見箱を設置している。	家族からの意見要望は訪問時や電話で近況報告をする際に聞くようにしている。家族へは領収書、請求書とケアプラン送付の際にコメントも添えている。入居者の意見は家族の訪問後に聞くこともある。出された意見は記録し、早急に話し合い運営へ反映させている。	入居まもない家族に対して認知症やグループホームについての理解を得る取り組みが期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的を実施している勉強会の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、個別に聞く機会を設けその中で出た意見等は、当ホームで検討しできる限り運営の中で反映できるようにしている。	会議や勉強会の際に職員からの意見や提案を聞く機会としている。普段から言いやすい雰囲気であり、業務中でも個別に聴くこともある。意見などは皆で検討し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに目を配り、指導や相談にのるように気配りをするように努めている。又、働きがいのある職場であり、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会を行い、より専門性の高い介護サービスができるよう努めている。又、外部研修にも積極的に参加するよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回地域ブロック会に出席し職員相互の交流に努めている。又、他施設を見学しサービスの質の向上に努めている。同業者の見学を受け入れ交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が必ず入居までに本人を訪問し、ご本人と十分面談している。又、家族と共に見学していただきご本人の問題点、家族の思いなどを傾聴し安心してサービスへ移行できるように信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに家族へ情報を提供している。又、悩み、要望等に耳を傾け信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族から必要なサービスの要望や意見を伺い随時対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、園芸、家事等を教えていただき、職員も勉強させていただいている。生活を共にするという思いである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた際は、必ず状態・状況を報告し、情報の共有を行なっている。また、面会時の様子等も家族から聞くようにし、以前と何か変わった事がないかを探り、よりよいケアを家族の方と提供できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば、昔から通っている美容室に、グループホームに入居してからも行けるように支援している。	馴染みの美容室を利用したり、知人がホームに訪問されたり、今までの関係を継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多少は相性や好みの差はあるが、共有の活動や趣味等を行えるように、随時観察や検討をしながら活動の場を提供している。生活を共にし、行動することにより助け合いや共有の関係が出来ている。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退居された場合でも、病院に度々お見舞いに行き、本人の様子をみている。また、家族の方にも話を伺い、何か困った事がないかを聞くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝える事ができる方には、どのような考え方をしているかや、日々をどのように過ごしたいかを聴いている。それが困難な方には、毎日の生活の中で、その人に合った生活とは何かを見つけ出すようにしている。	日頃の関わりの中で入居者の要望や意見を聞くようにし、しぐさや反応からも把握するように努め、記録している。家族から情報を得る場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を家族や担当のケアマネジャーより提供していただいている。これまでの生活を尊重し、長年使用されていた家具や小物を持ってきていただき居室にて再現できるように努めている。畳、フローリングの部屋があり選べるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、個々の生活状況・心身の状態変化を把握するようにしている。また、家事等をお願いすることにより、現在の能力がどれくらいのレベルになっているかを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方と十分話し合ったあと、直接介護に当たる職員同士や主治医、看護師と何度も話し合い、より良い介護計画の作成にあたっている。	入居前後には関係者や本人、家族と良く話し合い、ホーム職の意見も取り入れ納得できる介護計画を作成している。各担当を決め、毎日計画に沿ったケアだったかを評価し、他の職員の意見を聞き、計画作成担当者と共に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化あるときはカルテに詳細を記入、情報を共有し、介護計画に沿ったケアを実施している。随時、計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族のニーズに応えられるように努めている。法人全体の協力も得ることが可能なため必要に応じて通院など柔軟に対応している。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出かけること、地域の方を迎え入れること両面で地域とのつながりを意識している。毎年小学校からの運動会や音楽会などに招待されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医をどうするか、利用者・家族と話し合い、希望する医療機関を確認している。心身の変化や緊急時には往診にも応じるので入居者には系列の病院が便利だと思う。	希望のかかりつけ医の医療を受診することができる。かかりつけ医が決まってない場合は協力医療機関に変更される場合も多い。家族が通院介助をしてもらう場合と、ホーム職員による通院介助をする場合がある。通院後は情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の訪問看護ステーションより看護師が週一度来られ全身状態のチェックをされる。必要に応じて相談しながら入居者の健康管理等を支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関とは常に連携を取り、状態が落ち着けば、できるだけ早期退院でき馴染みの生活に戻れるよう協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から話し合いを行い症状が変化したその都度に本人・家族に希望を聴き対応している。又、職員全員で共通理解し、主治医と連携をとりながら対応できる環境が整っている。	重度化の見込みがある入居者の家族と早めに話し合いを始め、かかりつけ医、ホーム職員、家族と連携を図りながら希望に沿うように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、年に1～2回は消防署協力のもと、緊急時の救命講習を受けている。定期的に勉強会も行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との協力体制及び、全職員・入居者による定期的災害訓練にて避難方法ほか災害時必要不可欠な訓練を実施している。また、災害時の地域連絡網があり、必要な時には協力が得られるように備えている。	年2回消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。昼夜想定で、利用者も参加している。消火訓練も一緒に実施している。災害に関しては地域連絡網が作成されており、協力が得られるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの性格を理解し、その人が安心するような声かけや、尊厳を保てるような声かけを行なうようにしている。	各入居者に合わせた言葉かけや対応をしている。排泄時の呼びかけの際にもなるべく他の入居者に分からないようにしている。記録に関しても個人情報にも充分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定出来るような対人対話法を用い、本人の希望や考えを傾聴し入居者本人が納得出来るような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活ペースに合わせて、食事入浴、趣味等ができるよう支援している。できる限り入居者の希望やその日の体調に合わせて支援を行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時や入浴時、外出時など本人の意向に合わせた衣類調整など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けに関して、入居者それぞれの能力と希望に応じ、職員と共に活動している。パン食を好まれたり、好き嫌いがある方も他の食材等で対応できる部分は行い、盛り付けにも彩りなど考慮しながら食事を楽しんで頂けるようにしている。	食事に関しては法人本体の献立を参考にし、季節感や入居者の好みを取り入れたものとし、能力や希望、体調に応じて調理や盛り付け、後片付けなどを一緒に行っている。咀嚼や嚥下能力に応じて食事形態を変えている。職員も同じテーブルで同じ食事を一緒にとり、共に楽しく過ごすとともに情報を把握する時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに、入居者それぞれの摂取状態に応じて、刻み食や汁にトロミをつける等の工夫を行っている。また、水分の入りが悪い方には、コーヒーやジュースなど、本人が好まれる物で摂取していただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は、毎食後の義歯の洗浄・うがいを行っていただき、夜間は入れ歯洗浄剤に浸け、自歯の方は、歯磨き粉を使って歯をよく磨いていただき、それぞれ口腔内の清潔や口臭予防に努めている。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間共に、定時のトイレ誘導を行い、なるべく失禁を減らすようにしている。また、自分でトイレに行かれる方には、できる限り付添い、声かけや必要に応じて介助するなど自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェック表に記録し、時間やしぐさを察知して声かけや誘導を行い、できるだけトイレでの排泄できるように、自立に向けた支援を行っている。必要な方は水分チェックやインアウトを把握し、食事や水分補給に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続く方には、水分を多めに摂ってもらい、時には牛乳を飲んでいただく等の対応を行っている。運動に関しては、一人ひとりに合った散歩や歩行訓練を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに入浴への誘いかけを行い、希望があった方に入浴していただくようにしている。また、入居者が希望されれば、その都度対応するようにしている。	入居者の希望や体調に応じた入浴支援を行っている。基本的に1日おきであるが、希望や必要な場合は毎日入浴や清拭などを実施し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬は、希望される方には、夜間に本人持ちの湯タンポを使用している。また、ベッドの角度調整を行い、身体に負担がかからないよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を準備する際には、その薬の効能・効果・用法・用量を毎回確認し、本人の体調に異常があれば、看護師・医師に服薬についての指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの性格や好みを把握し、今までの生活歴を参考にし、一人ひとりに合った役割や仕事、遊び等を提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行きたい等の希望があれば、車で近くのスーパーに行ったりしている。また、お花見やドライブ、小学校の音楽会に出かけるなどして、地域の方々との交流を持つようにしている。	要望があれば散歩、買物やドライブにいつでも出かけている。季節や天候や体調を加味して、できるだけ多くの入居者が出かけられるように支援している。地域行事にも積極的に出かけ交流を図っている。	



グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる限り自分でお金の管理をしていただき、必要な時にきちんと使えるように支援している。本人管理が難しい場合には、事務所預かりとし、買い物時に本人にお金を渡して、自分で払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる家族の方には、手紙を書くよう促したり、または代筆を行なっている。また、職員が電話で家族に近況を報告したりする際に、後から本人代わって話していただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた装飾を行い、常に四季が分かるような空間作りに努めている。また、適度な気温を保ち、入居者の方が、全ての共用空間で快適に過ごせるよう努めている。	ホーム周辺には樹木が植えられ、散歩時には季節を肌で感じることができる。建物内部は季節を感じるような花や装飾が施されている。入居者の書の作品や写真等もある。室温や湿度、換気などにも配慮しており、清潔で気持ちよく過ごせる空間作りがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関には、腰掛けられるスペースが設けてあり、そこで1人で過ごされたり、時には何人かでお話されたりするなどの光景が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、本人が自宅で使われている物を持ってきていただき、なるべく以前の生活と変わらないように工夫している。また、写真や花など飾っていただき、居室でも楽しく過ごせるようにしている。	居室のドアの色は全て異なり、居室が分からない方の居室前には目印が取り付けられている。居室は洋室と和室があり、希望や身体状況に合わせて決定している。以前使用されていた家具や生活用品が持ち込まれ、過ごし易い居室作りの支援がしてある。家族の訪問の際にも居室で過ごされることが多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室に洗面台が設置されており、トイレも3居室に1つの割合で設置されているので、セルフケアがしやすい環境になっている。		

## 目標達成計画

作成日：平成23年3月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	入居者の家族に対し、認知症やグループホームについての理解が不十分である。	入居者の家族に対し、認知症やグループホームについての理解を深める。	①入居者とその家族と一緒に参加できる行事を企画し、ホーム内での生活や認知症についての理解を深めていただく。 ②広報誌を作成し、入居者の家族だけでなく地域の方にもグループホームの役割を知っていただく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。